

独立行政法人

国立博物館 概要

2005

平成17年度





独立行政法人国立博物館概要

目 次

国立博物館理事長からのメッセージ	1
I 国立博物館に求められていること	2
II 国立博物館の活動	3
1 美と知識の発信	3
①展示・公開活動	
②研究活動	
③教育普及活動	
④ボランティア	
2 美と知識を後世に伝える	6
①収集・保管・修理	
②情報の記録と発信	
3 博物館に親しむ	7
①入館者数	
②博物館施設の有効利用	
4 各館の活動状況	8
東京国立博物館	
京都国立博物館	
奈良国立博物館	
九州国立博物館	
III 国立博物館の運営	16
1 外部からの協力	16
①賛助会員制度等	
②友の会	
2 博物館の組織・定員	16
①組織	
②役員等	
③運営委員会	
④外部評価委員会	
⑤評議員会(各館別)	
⑥定員	
3 平成17年度予算	21
IV 評価	22
V 情報の公開	24
◇ 国立博物館からのお知らせ	25

独立行政法人

国立博物館理事長からのメッセージ



独立行政法人国立博物館の役員構成が、平成 17 年 4 月から変わりました。私と篠原監事は留任し、新たに、久保庭監事、佐々木理事・京都国立博物館長、湯山理事・奈良国立博物館長が就任しました。

また、同じく 4 月、待望の九州国立博物館が福岡県太宰府市に設置されました。福岡県と連携協力して運営していく新しい形の博物館です。10 月 16 日開館に向けて、三輪館長を中心に準備を進めています。

平成 17 年度は、13 年度から始まった 5 年間の中期目標とこれを達成するための中期計画の最終年度でありますので、その実現のために最大限の努力をするとともに、18 年度から始まる次期中期計画の策定に向けて、国立博物館の更なる充実発展を期してまいります。

独立行政法人国立博物館理事長 **野崎 弘**





国の行政改革の一環として、平成13年4月1日から東京国立博物館、京都国立博物館及び奈良国立博物館の三館が統合され、より質の高い極め細やかなサービスを国民の皆様を提供するために、独立行政法人国立博物館（以下国立博物館という。）が設立されました。また、平成17年4月1日には、福岡県太宰府市に九州国立博物館が機関設置され、国立博物館は四館体制となりました。九州国立博物館は、平成17年10月16日から一般公開を予定しています。

文部科学大臣から国立博物館の業務運営の指針として示された中期目標（5年間）を達成するため、国立博物館では中期計画を作成し、さらに年度計画を立てて事業を実施しています。

中期目標（13年度～17年度）では、国民に親しまれる博物館として、

- ① 貴重な国民的財産である文化財を良好な状態で後世に伝え、文化の継承をしていく。
- ② 文化財を広く国民に紹介し、文化の向上・発展に努める。
- ③ 我が国の「顔」として国際文化交流を推進する。
- ④ ナショナルセンターとして国内外の博物館活動の充実へ寄与する。

の4つの基本的な役割を掲げています。

このため収蔵品の充実や施設設備の整備充実をはじめとする収集・保管・展示機能、調査・研究機能及び教育普及機能の向上を図るとともに、国際交流や文化発信の拠点としての機能をより充実していく必要があるとし、以下の3つの項目が、中期計画において国立博物館に求められています。

- I 業務運営の効率化
- II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上
- III 財務内容の改善等

東京国立博物館



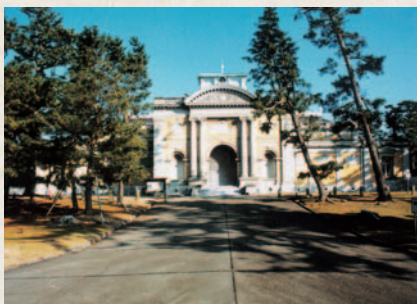
本館（重要文化財） 昭和13年（1938）開館

京都国立博物館



本館（重要文化財） 明治30年（1897）開館

奈良国立博物館



本館（重要文化財） 明治28年（1895）開館

九州国立博物館



平成17年（2005）開館



国立博物館の活動には、展示・教育普及というお客様への直接のサービスと、それらを支えている文化財の収集・保管を含めた調査研究活動があります。もちろん、収蔵庫や展示室等の施設・環境整備は、すべての活動の基盤になっています。ここでは、そのうちの主だったものを紹介します。



1 美と知識の発信

①展示・公開活動

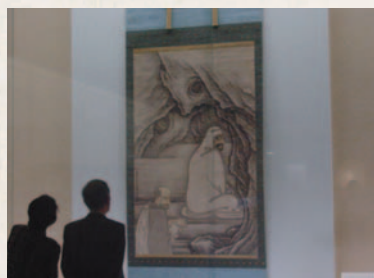
国立博物館では、美術品や考古資料等の文化財に接し、美や感動を味わっていただくため、また、伝統文化への理解を深めていただくため、平常展や各種特別展を開催しています。さらに、海外の博物館・美術館等と連携・協力し、海外の文化を紹介する展覧会を各国立博物館において開催するとともに、海外においても日本の文化を紹介する展覧会を開催しています。

展示では、次のことに配慮しています。

- ア) 褪色や劣化の進行を防ぐため、光量の抑制・温湿度調節・陳列期間の限定
- イ) 四季・節句・時宜に応じた作品の展示



特集陳列「銅鐃の絵画」(東京国立博物館)



特別公開「国宝指定記念 雪舟筆 慧可断臂図」
(京都国立博物館)

■平常展

平常展では、国立博物館の収蔵品・寄託品を中心として、各館の特色を生かした展示を行っています。各館とも定期的な陳列替えを実施し、年間で国立博物館計 11,800 件程度の作品を展示しています。

■特集陳列・特別公開

国立博物館では、近年の調査研究に基づいた特定のテーマによる展示や新発見の文化財の展示、また、普段は公開していない文化財の特別公開など、さまざまな展示を行っています。

平成17年度の主な特集(特別)陳列・特別公開 ※詳しくは4.各館の活動状況(P8~15)をご覧ください。

- 特別公開 興福寺創建 1300 年記念 「国宝 仏頭」(9月21日～10月16日)〈東京国立博物館〉
- 古今集 1100 年 新古今集 800 年記念 和歌と美術 (11月23日～12月25日)〈京都国立博物館〉
- お水取り (平成 18 年 2 月 14 日～3 月 21 日)〈奈良国立博物館〉

■特別展等

特別展・共催展

特別展・共催展は研究員の調査研究の成果をもとに、お客様のご要望にも対応した比較的大規模な展示です。

平成17年度の主な特別展・共催展 ※詳しくは4.各館の活動状況(P8～15)をご覧ください。

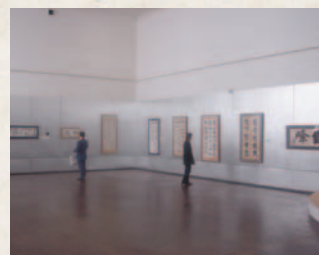
- 北斎展 (10月25日～12月4日)〈東京国立博物館〉
- 天台宗開宗1200年記念 最澄と天台の国宝 (10月8日～11月20日)〈京都国立博物館〉
- 古密教—日本密教の胎動— (7月26日～9月4日)〈奈良国立博物館〉
- 開館記念特別展「美の国 日本」(10月16日～11月27日)〈九州国立博物館〉

海外展

海外展は海外の博物館等と提携・協力して日本の文化を海外に発信し、日本文化への関心と理解の増進を図ることを目的としています。

平成17年度の海外展

- 19世紀万国博覧会の日本美術展
会場:カウンティー博物館(アメリカ)
(5月12日～10月2日)〈東京国立博物館〉
- 東京国立博物館所蔵 日本美術展(仮称)
会場:テパパ国立博物館(ニュージーランド)
(平成18年3月10日～5月7日(予定))
- 中日書法名品展(仮称)
会場:上海博物館(中国)
(平成18年3月13日～4月23日)〈東京国立博物館〉
- 京都 18世紀美術の精華(仮称)
会場:サンフランシスコ・アジア美術館(アメリカ)
(12月2日～平成18年2月26日)〈京都国立博物館〉



海外展
「西川寧書法芸術展」
中国国家博物館(北京)
平成17年3月26日～5月8日
(東京国立博物館)



海外交流展
「日本名宝展」
中国国家博物館(北京)
平成16年5月25日～6月30日
(奈良国立博物館)

地方巡回展

地方の博物館・美術館との協力により開催し、各国立博物館の文化財を地方に巡回することによって、博物館、ひいては文化そのものに対する関心と理解の増進を図ることを目的としています。

平成17年度の巡回展

- 高山市合併記念・東京国立博物館巡回展「国宝 その美とところ」
会場:ミュージアム温故知新(4月8日～5月8日)
- 開館75周年記念特別展「祈りの美—奈良国立博物館の名宝—」
会場:神奈川県立金沢文庫(4月21日～6月5日)



「国宝・その美とところ」
ミュージアム温故知新
平成17年4月8日～5月8日



「祈りの美—奈良国立博物館の名宝—」
神奈川県立金沢文庫
平成17年4月21日～6月5日

②研究活動

展示活動、収蔵品の保管その他博物館における活動は、職員や客員研究員による研究活動によって支えられています。

特に文化財に関する調査研究は、博物館の基礎体力を築き強化するもので、その成果が平常展や展覧会に反映されています。

例えば平成16年4月から6月に東京国立博物館で開催された「空海と高野山」展では、院政期の代表的な仏画である『応徳涅槃図』の研究を東京文化財研究所と共同で行い、高精細デジタル撮影、蛍光撮影等を実施した結果、有機顔料使用箇所特定などの成果を上げました。また、平成16年8月から9月に京都国立博物館で開催された「神々の美の世界」では、調査で新たに見出された平安から鎌倉時代前期の作と見られる石清水八幡宮の神宝『黒漆諸尊金銀泥絵八角宝珠箱』を初公開しました。

このように、日々の研究活動が展示の活性化をもたらしています。

【主な調査研究】

- ア) 各館所蔵品の調査研究
- イ) 展覧会のテーマによる調査研究
- ウ) 地域・社寺に関する文化財調査
- エ) 科学研究費補助金による調査研究
- オ) 国内外の共同研究
- カ) 有形文化財の保管・展示に関わる環境等の調査研究



調査研究(奈良国立博物館)

③教育普及活動

生涯学習社会への対応、学校週5日制や新学習指導要領実施に伴う学校教育機関との連携等、下記に掲げる多岐にわたる教育普及活動を行っています。

また、公立博物館・美術館の学芸員を対象に、資質向上に資するための研修を実施しています。教育普及活動は、今後の博物館活動の重要な柱の一つとして今後も充実させて行きます。

- ア) 情報資料の収集と公開
- イ) 児童生徒・教員を対象とした事業
- ウ) 公開講座・ギャラリートーク
(月例講演会、土曜講座など)
- エ) インターシップの受入れ
- オ) 大学等との連携
- カ) シンポジウム



教員内見会(東京国立博物館)



親と子のギャラリートーク(東京国立博物館)

④ボランティア

生涯学習社会への対応としてボランティアを受け入れ、展示会場での作品解説、ワークショップの補助やボランティア自身で企画・実施する事業など、国立博物館では、さまざまな活動の場を提供しています。



児童・生徒ボランティア
(東京国立博物館)



学生ボランティアによる解説
(京都国立博物館)



ボランティア解説
(奈良国立博物館)

①収集・保管・修理

■収蔵品・寄託品

国立博物館では、東京・京都・奈良・九州各館の特色を更に充実させるため、また、有形文化財の散逸や海外流失を防ぐために有形文化財の収集(購入・寄贈・寄託)に不断努力を続けています。

収蔵品

(平成17年3月31日現在)

国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
119,474	130	899	111,444	91	623	6,238	27	181	1,727	12	95	65	0	0

平成16年度の主な新収品



「宣房本三十六歌仙絵巻断簡」
(東京国立博物館)



「山水図押絵貼屏風」
(京都国立博物館)



「禽獣文鮫皮蒔絵洋櫃」
(九州国立博物館)



「毘沙門天立像」
(奈良国立博物館)

各館の平常展を充実させるため、多くの方々から文化財を寄託して頂いております。
また、指定文化財の公開を奨めるため、文化庁長官による勧告・承認出品も寄託として活用しています。

寄託品

(平成17年3月31日現在)

国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
10,539	197	1,279	2,451	62	326	6,142	83	628	1,946	52	325

■修理

有形文化財は、おおよそ100年に1回の修理を重ね、今日まで伝世しています。

国立博物館においては、日常的な展示・保管のための緊急修理と収蔵品の損傷の進行状況により、計画的に本格的修理を実施しています。

②情報の記録と発信

調査研究の成果、修理報告等の刊行、ホームページの運用や、文化財や情報資料を後世に伝えるため資料のデジタル化を推進しています。

また、東京国立博物館では「TNMイメージアーカイブス」、京都国立博物館では「@ KYOTO MUSE」としてデジタルデータの有料提供を実施しています。

刊行物

- ・ 展覧会図録
- ・ 研究紀要
- ・ 修理報告書



TNMイメージアーカイブスを利用した商品
(東京国立博物館)



修理前



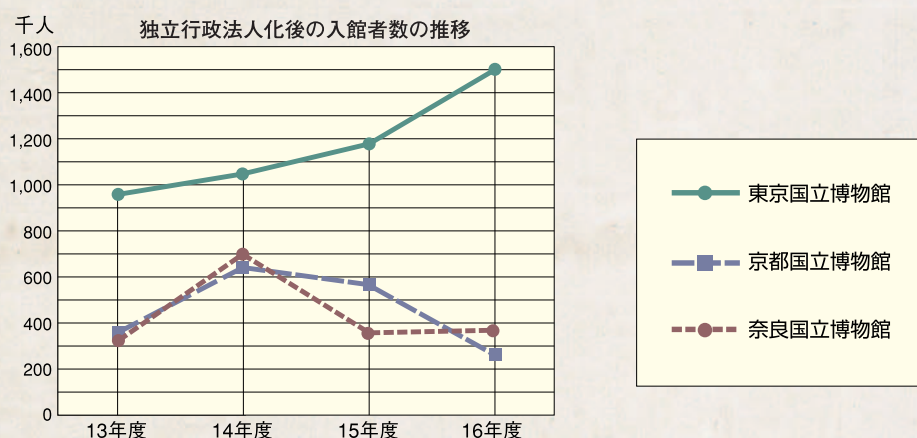
修理後

「一遍上人伝絵巻 巻第七」
(東京国立博物館)

3 博物館に親しむ

①入館者数（平成16年度）

国立博物館	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
総数 2,162千人	1,528千人	269千人	365千人



②博物館施設の有効利用

博物館や文化財に広く親しんでいただくため、博物館の観覧と一体化した民間企業のイベント等に博物館施設の貸し出しを行っています。これは、独立行政法人になってからの新たな取組です。国立博物館の企画・主催によるイベントは、展覧会に関係するものや各館の施設に親しんでいただくことを目的としていますが、民間企業や一般団体のニーズに応えることによる、博物館施設の有効な活用も目指しています。

平成16年度 博物館施設の有効利用

各館主催による主なイベント

- 東京国立博物館文学講演会 樋口一葉(東京国立博物館)
- 東京芸術大学との連携事業コンサート(東京国立博物館)
- 日本テレマン協会、サロン・ド・ソネット等との共催によるコンサート(東京・京都・奈良国立博物館)
- 京都らくご博物館(京都国立博物館)
- 雅楽の夕べ(奈良国立博物館)

その他民間企業・一般団体による施設の有効利用

- 民間企業主催による展示鑑賞会及びパーティー等(東京国立博物館)
- テレビドラマ撮影のための会場提供(京都国立博物館)
- 世界遺産吉野協議会が主催する写真展(奈良国立博物館)
- スウェーデン国会議員歓迎の夕べ(奈良国立博物館)



民間企業主催によるパーティー(東京国立博物館)



クリスマスオペラコンサート(京都国立博物館)



文楽の夕べ(奈良国立博物館)

東京国立博物館

Tokyo National Museum



平成17年は、愛・地球博（愛知万博）、日・EU市民交流年、日本におけるドイツ年、日韓友情年の年であり、国際交流を重視してまいります。「ようこそ!ジャパン」運動に呼応し、外国からも更に多くの方々が来館されるよう努めてまいります。

また、法隆寺宝物館には、正倉院宝物よりも、時代の古い飛鳥・白鳳期の仏教美術品が展示されていますが、「鑑賞の場」としてだけではなく「憩いの空間」としても多くの方々が親しむことができるようにしていきます。そのため、動線やスペースの使い方などを工夫するとともに、特別公開や特集陳列などの各種事業を展開します。

東京国立博物館長 野崎 弘

■展示公開活動

●平常展

平常展は、本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館で行われています。定期的な展示替を実施しており（年180回程度）、平成17年度は約8,000件の文化財を展示・公開する予定です。各展示館ごとの特色は次のようになっています。

本 館：日本の美術・工芸の展示を行っています。

（日本ギャラリー）1階は彫刻、陶磁、刀剣といった分野別展示、2階は「日本美術の流れ」という縄文時代から江戸時代までの通史展示になっています。

東 洋 館：中国、朝鮮半島を中心としたアジア地域的美術・工芸・考古遺物の展示を（アジアギャラリー）行っています。

平 成 館：1階の考古展示室では、縄文時代の火焔土器や、弥生時代の銅鐸、古墳時代の埴輪といった考古遺物の展示を行っています。

法隆寺宝物館：奈良・法隆寺の献納宝物300件余りの展示を行っています。

特集陳列・特別公開

平常展の中でもテーマを決めた特集陳列や、普段公開されていない文化財の特別公開という形で一般公開も行っています。以下は平成17年度の主な特集陳列・特別公開です。

- ・兜のながれ-古墳から江戸まで- (3月29日～7月3日)
- ・平成17年新指定品 国宝・重要文化財 (4月26日～5月8日)
- ・平成16年度新収品 (5月24日～6月19日)
- ・博物館図譜-その系譜をたどる- (6月21日～7月31日)
- ・新たな国民のたから-文化庁購入文化財展 (7月26日～9月4日)
- ・興福寺創建1300年記念特別公開「国宝 仏頭」 (9月21日～10月16日)
- ・江戸の見世物 (12月23日～平成18年1月15日)
- ・博物館に初もうで (平成18年1月2日～1月29日)
- ・特別公開「国宝 天寿国繡帳と聖徳太子像」 (平成18年3月14日～4月9日)

●特別展・共催展

研究成果の公開の場、お客様の要望にこたえる場として、特別展・共催展を開催しており、平成17年度は以下の展覧会を開催します。

- ・世界遺産・博物館島 ベルリンの至宝展-よみがえる美の聖域- (4月5日～6月12日)
- ・遣唐使と唐の美術 (7月20日～9月11日)
- ・模写・模造と日本美術 (7月20日～9月11日)
- ・華麗なる伊万里・雅の京焼 (10月4日～12月4日)
- ・北斎展 (10月25日～12月4日)
- ・書-日本と中国 (平成18年1月11日～2月19日)
- ・天台宗開宗1200年記念 最澄と天台の国宝 (平成18年3月28日～5月7日)



平常展（本館）



平常展（法隆寺宝物館）

撮影：佐藤 暉



特別展「万国博覧会の美術」



特別展「唐招提寺展」

我が国を代表する博物館として、日本を中心にした
広く東洋諸地域にわたる文化財について、収集・保管・
展示、調査研究、教育普及活動を行っています。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

TEL 03-3822-1111 (代表)

<http://www.tnm.jp/>



国宝 扇面法華經冊子
(東京国立博物館)

教育普及活動

東京国立博物館では、学校の完全週5日制の実施等を踏まえて、児童・生徒向けプログラムを実施するとともに、教員向けの研修・ボランティア等の受入を行い、学校と連携した活動を目指しています。平成17年度の活動は以下のとおりです。

- ・親子のギャラリー
- ・ボランティアによる作品解説
- ・中・高生を対象とした就業体験プログラムの実施
- ・「総合的な学習の時間」の受け入れ
- ・展示に関連した館内外ツアーの実施
- ・教員研修
- ・教員を対象とした特別展の説明会・内見会



親子のギャラリー

調査研究活動

計画的な調査研究を実施し、文化財の収集・保管・展示に反映しています。この活動には科学研究費補助金や文化活動の助成金も活用しています。平成17年度の研究テーマの一部を紹介します。

- ・館蔵品狩野家模本に関する調査
- ・絵画および器物における彩色・装飾技術に関する技術移転の実態と独自性発生の機構
- ・歴史的建造物における文化財の保存展示空間の再開発を目的とした理論の構築に関する研究
- ・法隆寺献納宝物特別調査 26「聖徳太子絵伝」
- ・江戸時代五十嵐蒔絵に関する調査研究—蒔絵粉の拡大観察を中心として—
- ・江戸幕府旧蔵資料の総合的研究



調査研究

Tokyo National Museum

収蔵品 111,444件(国宝91件 重要文化財623件)
寄託品 2,451件(国宝62件 重要文化財326件)
(平成17年3月31日現在)

沿革

- 明治5年(1872) 旧湯島聖堂の大成殿で開催された日本初の博覧会を機に、「文部省博物館」として発足
- 明治8年(1875) 内務省所管となる。陳列区分は天産、農業山林、工芸器械、芸術、史伝、教育、法教、陸海部の8部門
- 明治15年(1882) 上野寛永寺本坊跡の現在地に移転
- 明治22年(1889) 宮内省所管の帝国博物館となる
- 明治33年(1900) 「東京帝室博物館」と改称
- 大正12年(1923) 関東大震災により、旧本館が損壊
- 大正14年(1925) 天産部の列品を文部省の東京博物館(現在の国立科学博物館)等に移管
- 昭和13年(1938) 現在の本館が開館
- 昭和22年(1947) 文部省所管「国立博物館」となる
- 平成11年(1999) 法隆寺宝物館が開館、つづいて平成館が開館
- 平成13年(2001) 独立行政法人国立博物館 東京国立博物館となる

利用案内

開館時間／9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

4月～12月の特別展開催期間中の毎週金曜日は
20:00まで開館

4月～9月の土曜、日曜、祝日、振替休日は18:00
まで開館

休館日／月曜日

(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)

年末年始(12月28日～1月1日)

入場料／一般 420(210)円 大学生 130(70)円 高校生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金

※特別展の場合は別料金

※障害者とその介護者1名は無料

※満65歳以上は平常展について無料



京都国立博物館

Kyoto National Museum



京都国立博物館は、京都という長い伝統文化を継承する地にあることを重視した、地域に根付いた活動を目標としています。京都では様々な伝統文化芸術が熟成し、それが全国に広まって、日本的なものとして把握されるようにもなりましたので、こうした広がり全体を視野に置きながら、その中での「京都」を発信していきたいと思っています。

作品の収集、保存、修復、研究調査活動と、展示公開、教育活動とのより良いバランスを取しながら、多くの皆様に美術作品に親しんでいただける場となることを願っています。

京都国立博物館長 佐々木 丞平

展示公開活動

●平常展

平常展示館で開催します。概ね近世までの美術工芸品を、展示室ごとに絵画・彫刻・工芸・書跡・考古等の各分野にわたり、定期的に陳列換え（年50回程度）を行いながら年間約2,000件を展示します。

特集陳列

平常展示館の一部を使用し、特定のテーマに基づき開催します。

- ・新収品展（6月1日～7月3日）
- ・長楽寺創建1200年記念 歴代遊行の軌跡（7月13日～8月21日）
- ・古今集1100年 新古今集800年記念 和歌と美術（11月23日～12月25日）
- ・京都社寺伝来の名刀（平成18年1月2日～2月12日）
- ・神像と獅子・狛犬（平成18年1月2日～3月26日）
- ・雛まつりとお人形（平成18年2月18日～4月2日）
- ・修理完成記念 妙顕寺の文書（平成18年3月1日～4月2日）

●特別展・共催展

特別展示館で開催いたします。

- ・曾我蕭白－無頼という愉悅－（4月12日～5月15日）
- ・坂本龍馬生誕170年記念龍馬の翔けた時代－その生涯と激動の幕末－（7月16日～8月28日）
- ・天台宗開宗1200年記念 最澄と天台の国宝（10月8日～11月20日）



平常展



新春特集陳列「仏像と写真」

文化財の収集・保管・修理

京都国立博物館では、設立以来、社寺に伝来してきた名宝の寄託を多数受けています。館蔵品も、京都文化に関する美術・考古資料をはじめとする文化財の購入及び寄贈によって、年々増加しています。

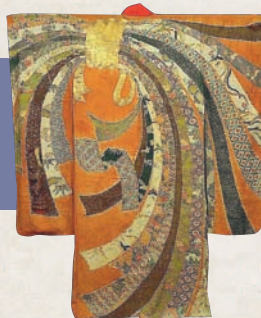
また、そうした文化財を後世に伝えるためには、適切な修理や保存処置を施す必要があります。昭和55年には、日本で最初の総合的文化財修理専用施設として文化財保存修理所が設置されています。



文化財保存修理所

平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保管、展示、調査研究、教育普及活動を行っています。

〒605-0931
京都府京都市東山区茶屋町527
TEL 075-541-1151 (代表)
<http://www.kyohaku.go.jp/>



束熨斗文様振袖
(京都国立博物館)

博物館実習



教育普及活動

●児童・生徒向け活動

- ・小中学生向け作品解説シート(博物館デイクシヨナリー)の作成及びホームページ掲載
- ・特集陳列等で児童生徒を対象とした講座(少年少女博物館くらぶ)を実施
- ・絵画コンクールの実施
- ・中学生の体験学習の受け入れ

●大学院教育研究における連携・協力

京都大学大学院人間・環境学研究科において、当館の研究員が客員教員として教育研究を行っています。

●講座・講演会等

- ・土曜講座の開催(年45回程度)
毎週土曜日、当館研究員による展覧会や展示品についての講座を行っています。
- ・夏期講座の開催(7月27日～7月29日)
「模倣と創造Ⅲ」というテーマで行います。
- ・特別展「最澄と天台の国宝」に因んだ国際シンポジウムの開催(11月12日)



夏期講座

●出版物

研究紀要「学叢」、「名品図録」などさまざまな出版物を刊行しています。

調査研究活動

●調査研究

当館では、博物館事業の基礎資料を得るため、昭和54年度から、組織的に社寺文化財の悉皆的調査を実施しています。現在は建仁寺及びその塔頭の文化財調査を継続中です。

社寺調査の成果はその都度『社寺調査報告』として刊行(現在第23冊)し、これは社寺の宝物台帳としても利用されています。

その他の活動

●京都・らくご博物館

親しまれる博物館づくりの一環として、わが国の伝統文化である落語を「京都・らくご博物館」と題して、年4回季節に応じた演目を上演します。このほか、講演会や音楽会の開催も予定しています。



京都・らくご博物館

Kyoto National Museum

収蔵品 6,238件(国宝27件 重要文化財181件)
寄託品 6,142件(国宝83件 重要文化財628件)
(平成17年3月31日現在)

沿革

明治30年(1897)	帝国京都博物館として開館
明治33年(1900)	「京都帝室博物館」と改称
大正13年(1924)	京都市に下賜し、「恩賜京都博物館」と改称
昭和27年(1952)	恩賜京都博物館を国に移管し、文化財保護委員会の附属機関として「国立博物館」と改称
昭和41年(1966)	現在の平常展示館が開館
昭和44年(1969)	特別展示館、表門、同札売場、袖堀が「旧帝国京都博物館」として重要文化財に指定される
昭和48年(1973)	第1回土曜講座開講
昭和54年(1979)	文化財保存修理所完成
平成13年(2001)	百年記念館(仮称)新築事業の一環として南門が竣工
平成13年(2001)	独立行政法人国立博物館 京都国立博物館となる

利用案内

開館時間／9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

特別展覧会開催期間中は18:00まで開館(金曜日のみ20:00まで開館)

休 館 日／月曜日

(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)
年末年始(12月27日～1月1日)

入 場 料／一般 420(210)円 高校生・大学生 130(70)円
中学生以下 無料

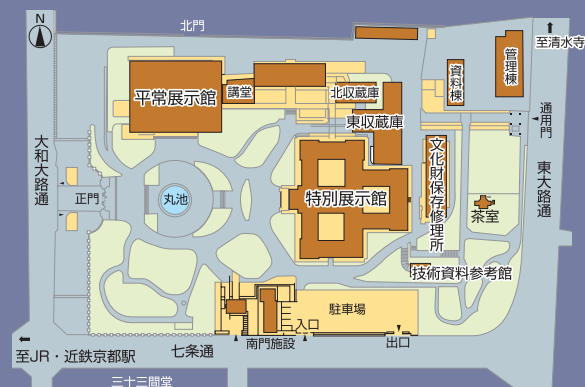
※()内は20名以上の団体料金

※特別展の場合は別料金

※障害者とその介護者1名は無料

※満70歳以上は平常展について無料

「京都国立博物館の日」として、毎月第2・第4土曜日の平常展については無料



奈良国立博物館

Nara National Museum



奈良国立博物館は、明治28（1895）年の開館以来、南都諸社寺の御協力をいただきながら、仏教美術を中心とした文化財の収集・保管・調査研究や教育普及活動を行い、広く国民に我が国の仏教文化のもつ優れた芸術性やその背景にある歴史について紹介してまいりました。今後は、奈良文化の発信の拠点として、日常活動の充実に努めるとともに、文化財の保存、さらに国際化や情報化の一層の拡充に努力し、国民の皆様の目線に立った親しみやすい博物館を目指して、活動を展開していきたいと思っております。

奈良国立博物館長 湯山賢一

展示公開活動

●平常展

「仏教美術の名品」と題し、本館および西新館で行っています。本館では、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、およびその源流となるガンダーラ・中国・朝鮮半島の諸作品と、中国古代青銅器のコレクションを展示しています。西新館では絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に展示を行います。平常展では、定期的な陳列替（年19回程度）により、約600件以上の文化財を公開いたしますが、特に、唐招提寺金堂の薬師如来立像（国宝）や、法隆寺伝法堂の天平彫刻の公開など魅力的な内容となっています。

特別陳列

各分野で行う小規模のテーマ展示です。

- ・宿院仏師－戦国時代の奈良仏師－（5月28日～7月10日）
- ・模造にみる正倉院宝物（9月20日～10月10日）
- ・お水取り（平成18年2月14日～3月21日）

親と子のギャラリー

小・中学生にも分かりやすい仏教美術の入門展示です。

- ・ほとけさまのお花－蓮－（7月26日～9月4日）

●特別展・共催展

- ・曙光の時代－ドイツで開催した日本考古展－（17年3月23日～5月8日）
- ・古密教－日本密教の胎動－（7月26日～9月4日）
- ・遣唐使と唐の美術（9月20日～10月10日）
- ・第57回正倉院展（10月29日～11月14日）
- ・金沢文庫の名宝（仮称）（12月3日～18年1月15日）
- ・公慶上人（仮称）（12月3日～18年1月15日）

巡回展

神奈川県立金沢文庫を会場に巡回展示します。

- ・祈りの美 奈良国立博物館の名宝（4月21日～6月5日）

文化財の収集・保管・修理

貴重な国民の財産である有形文化財を守るため、購入・寄贈・寄託により、有形文化財の収集に努力しています。

展示室や収蔵庫においては、常時適切な温湿度管理を実施するなど、収集した文化財の保存環境にも細心の注意を払っています。

また、我が国に伝わる文化財は紙、木など脆弱な材質のものが多く、これらを後世にいかん長く伝えるかが大きなテーマになっています。当館では平成14年に文化財保存修理所を設置、文化財の計画的修理を実施しています。



特集陳列「大和の神々と美術 談山神社の名宝」



特別展「厳島神社国宝展」



平成16年度新収品「大威徳明王像」

仏教美術を中心とした文化財について、
収集・保管・展示、調査研究、
教育普及事業等を行っています。

〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50
TEL 0742-22-7771(代表)
<http://www.narahaku.go.jp/>



愛染明王坐像
(奈良国立博物館)

教育普及活動

近年の生涯学習へのニーズと学校週5日制・新学習指導要領実施への対応や、公立博物館・美術館学芸員の資質向上、学芸員資格取得希望者への実習など、文化財に対する理解を深めるための様々な教育普及活動にも力を入れています。

- ①文化財に関する情報資料の収集と公開
- ②児童・生徒を対象とした事業
親子の文化財教室、教員向け講座の開催
- ③講演会・講座等の実施
ギャラリートーク、公開講座、夏季
講座、特別展に関するシンポジウム
- ④博物館学実習
- ⑤ボランティア活動の充実



博物館学実習

調査研究活動

文化財に関する調査研究は、その成果が平常展や特別展に反映され、展覧会の活性化をもたらすことから、特に重要な活動と位置づけています。奈良国立博物館では、平成17年度も以下のテーマで調査研究を行い、着実な成果をあげてまいります。

- ①南都諸社寺に関する計画的な調査研究
- ②海外所在東洋美術を対象とする調査研究
- ③大和古代寺院出土遺物の研究(帝塚山大学考古学研究所との共同研究)
- ④仏教絵画に関する東京文化財研究所との共同研究
- ⑤仏教美術写真収集及びその調査研究
- ⑥韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館(北京)等との学術交流



調査研究

N a r a National Museum

収蔵品 1,727件(国宝12件、重要文化財95件)
寄託品 1,946件(国宝52件、重要文化財325件)
(平成17年3月31日現在)

沿革

明治22年(1889)	帝国奈良博物館として設置
明治28年(1895)	開館
明治33年(1900)	奈良帝室博物館と改称
大正3年(1914)	正倉院掛け置かれる
昭和22年(1947)	宮内省より文部省に移管される
昭和25年(1950)	文化財保護委員会附属機関となる
昭和27年(1952)	奈良国立博物館と改称
昭和43年(1968)	文化庁の附属機関となる
昭和47年(1972)	陳列館新館(西新館)竣工
昭和55年(1980)	仏教美術資料研究センター設置
平成7年(1995)	開館百周年記念式典挙行
平成9年(1997)	東新館、地下回廊竣工
平成12年(2000)	文化財保存修理施設竣工
平成13年(2001)	独立行政法人国立博物館 奈良国立博物館となる

利用案内

開館時間/9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで)

4月最終から10月最終までの毎金曜日、正倉院展期間
中の毎金曜日、8月13日~15日、12月17日、1月8日、2月
3日、3月12日は19:00まで開館

※正倉院展会期中の開催時間 9:00~18:00(入館
は閉館の30分前まで)

休 館 日/月曜日

(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)
年末年始(12月28日~1月1日)

入 場 料/一般 420(210)円 高校生・大学生 130(70)円
中学生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金

※特別展の場合は別料金

※障害者とその介護者1名は無料

※満70歳以上は平常展について無料



九州国立博物館

Kyushu National Museum



九州国立博物館は、平成17年4月に機関設置し、いよいよ10月16日から一般公開を開始いたします。当館は、福岡県と連携協力し、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトのもと、来館者にはアジアとの長い文化交流の歴史をお見せし、子ども達にはアジアの多様な文化を楽しく体験してもらいます。また、博物館科学や国際交流の拠点となることを目指しております。そしてこれらを通じて地域の発展にも貢献します。建物も、中身も「ガラス張り」の、市民にとって身近な博物館となることを常に心掛けながら、努力を重ねてまいります。

九州国立博物館長 三輪嘉六

展示公開活動

●文化交流展(平常展)

九州国立博物館のコンセプトを示す文化交流展(平常展)は「海の道、アジアの路」という展覧会名で開催します。中央の基本展示室と、それをとりまく14の関連展示室、併せて3,900㎡の空間を、1「縄文人、海へ」(旧石器～縄文時代)、2「稲づくりから国づくり」(弥生～古墳時代)、3「遣唐使の時代」(奈良～平安時代)、4「アジアの海は日々これ交易」(鎌倉～室町時代)、5「丸くなった地球 近づく西洋」(江戸時代)という五つの大テーマに分け、日本文化がどのようにアジアと関わって形成されてきたのか、国宝・重要文化財多数を含む多種多様な展示品でご覧いただきます。

この展示では実物展示だけでなく、大型モニターを使い九州国立博物館での公開のために取材・製作した迫力満点な映像の上映、さらに携帯用小型機器などによる教育普及プログラムの実施、また英韓中の3カ国語による外国人向け音声ガイドの提供など、国籍・年齢を問わず幅広い層の来館者を念頭に、楽しくわかりやすい博物館を目指します。展示替えも17年度は67回を予定しており、おいでいただくたびに新鮮で新たな展示がご覧いただけます。

企画展示「ホップ・ステップ・九博」展 (2月15日～4月10日)

開館に先立ち、東京国立博物館で九博開館への意気込みをご覧いただく展覧会を開催しました。会期中に4万人を超える多数の皆様にご来場いただきました。

●特別展・共催展

- ・開館記念特別展「美の国 日本」(10月16日～11月27日)

対外交流が九州において最も劇的な展開を遂げた二つの時期をとりあげ、日本が美を追究することによりに情熱を注いだ国であったかを浮かび上がらせようとする展覧会です。国宝・重要文化財を多数展示してご紹介いたします。

- ・特別展「中国 美の十字路」(平成18年1月1日～4月2日)

これまで顧みられることの少なかった漢と唐のはざまに焦点を当て、唐の文化に向かって遅しく、躍動感にあふれ突き進む時期の中国文化を広く紹介いたします。

文化財の収集・保管・修理

●平成16年度新収品

平成16年度は、以下の作品を中心に9点収集しました。

- ・殉教三聖人図 1面

長崎における殉教者二十六人のうち三人を描く油絵は、わが国におけるキリスト教の歴史を同時代のヨーロッパ人が絵にしたものです。

- ・宗家文書 一括

朝鮮王朝とわが国の外交を担当した対馬の宗家にかかわる文書類です。

●修理

新収蔵品の絵画「殉教三聖人図」の修理を行うほか、文化交流展(平常展)に陳列予定の新潟県中越地震で被災した縄文土器についても開館に向けて修理を実施します。



「ホップ・ステップ・九博」展会場風景



開館記念特別展「美の国 日本」



平成16年度新収品「殉教三聖人図」

日本文化の形成をアジア史的観点から捉え、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
TEL 092(918)2807(代表)
<http://www.kyuhaku.com/pr/>



花鳥蒔絵螺鈿聖龕
(九州国立博物館)

教育普及活動

①教育普及展示室「あじっば」での事業

「あじっば」は、日本と歴史的に交流のあった諸地域の生活文化を比較体験する教育普及展示室です。ここでは次のような事業を行います。

- ・教育キットの開発・実施
- ・ジュニア学芸員(中～大学生)による教育プログラムの開発・実施
- ・博物館と学校教育が連携したプログラムの開発
- ・一般来館者が博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

②ボランティア292名の受け入れ

基礎、専門研修を実施し、展示解説、教育普及、館内案内、イベントの充実を図ります。

③国内外の子ども用ガイドブック作成

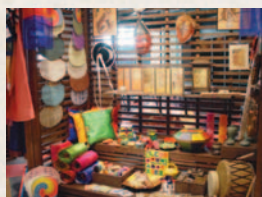
④ホームページの教育普及部門の充実

⑤学術交流

- ・国際シンポジウムの開催
- ・国内外の提携館交流の基盤整備

⑥インターン制度

大学等と提携を計り、受け入れ体制を整備します。



あじっば

調査研究活動

装飾古墳データベース

●装飾古墳データベース

高度情報化に係る研究成果として、平成17年2月15日から、当館ホームページにおいて、「装飾古墳データベース」の公開を開始しました。北・中部九州に広まった装飾古墳が、地図・文様・古墳名から検索でき、装飾の一点一点を精密な写真で見ることができます。一部の古墳は、航空写真で上空から見ることで、内部が3Dで再現されており、装飾がどの位置にどのような形で描かれていたかをリアルに感じることができます。

●博物館科学

文化財に影響を与える温湿度や光や空気質などについて、適切な展示・収蔵環境の安定、維持のための継続測定や分析検査を行っています。虫病害対策は地球規模での環境配慮から化学薬剤だけに頼らない方法(IPM:総合的有害生物管理)を目指し、「目とおし風とおし」のシステム化を図る中で、害虫処理には窒素ガスを用いる低酸素法新型装置などの運転を始めます。

透過X線撮影装置などの各種機器による調査も開始し、文化財の状態を的確に把握し修理事業に反映できるように計画しています。

Kyushu National Museum

収蔵品 65件(国宝0件、重要文化財0件)

(平成17年3月31日現在)

沿革

- 平成6年(1994) 文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」を設置
- 平成7年(1995) 新構想博物館を九州国立博物館(仮称)として、その設置候補地を福岡県太宰府市とすることを決定
- 平成9年(1997) 同委員会が「九州国立博物館(仮称)基本構想」を取りまとめ
- 平成10年(1998) 同委員会が「九州国立博物館(仮称)基本計画」を策定
- 平成11年(1999) 文化庁、福岡県及び財団法人九州国立博物館設置促進財団(以下「財団」という)で「建築基本設計」を完了し、また、文化庁及び福岡県が設置した「九州国立博物館(仮称)設立準備専門家会議」が「常設展示計画」を策定
- 平成12年(2000) 文化庁、福岡県及び財団で「建築実施設計」を、また、文化庁、福岡県で「展示基本設計」を完了
- 平成13年(2001) 文化庁、福岡県及び財団で「建設工事(3年計画の第一年次)」に着手
- 平成14年(2002) 独立行政法人国立博物館及び福岡県で「展示実施設計」を完了
- 平成15年(2003) 独立行政法人国立博物館及び福岡県で「展示工事(2年計画の第一年次)」に着手するとともに、「建設工事」を完了
- 平成16年(2004) 建物竣工、博物館名を九州国立博物館に正式決定
- 平成17年(2005) 独立行政法人国立博物館 九州国立博物館となる

利用案内

開館時間/9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日/月曜日

(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)

12月26日~12月31日

※開館記念特別展「美の国 日本」の期間中(10月16日~11月27日)は、原則として無休

入場料/一般 420(210)円 高校生・大学生 130(70)円

中学生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金

※特別展の場合は別料金

※障害者とその介護者1名は無料

※満70歳以上は文化交流展(平常展)について無料





1 外部からの協力

① 賛助会員制度等

国立博物館は、活発な事業運営を進めていくため自助努力するとともに、広く皆様のご支援をいただき、運営基盤を確保する必要があります。このような趣旨から、東京国立博物館、奈良国立博物館では賛助会員制度を設けています。また、京都国立博物館では、(社)清風会のご支援を受けています。

② 友の会

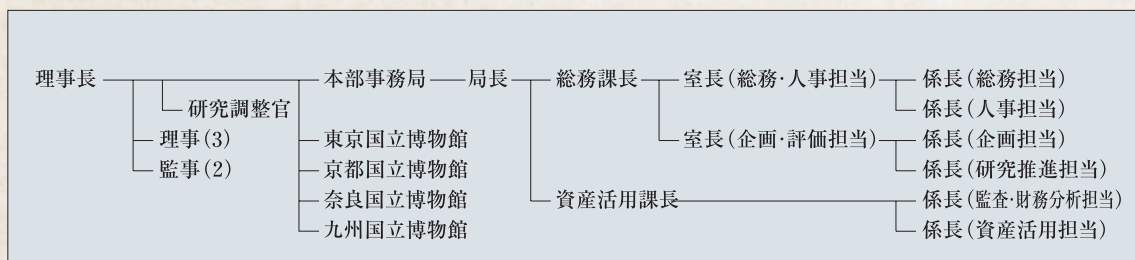
国立博物館により親しんでいただくため、各種事業に参加していただくことを目的に設けています。運営の態様は、各館の地域性に鑑み、各館独自の運営となっております。

※詳しくは P25 をご覧ください。

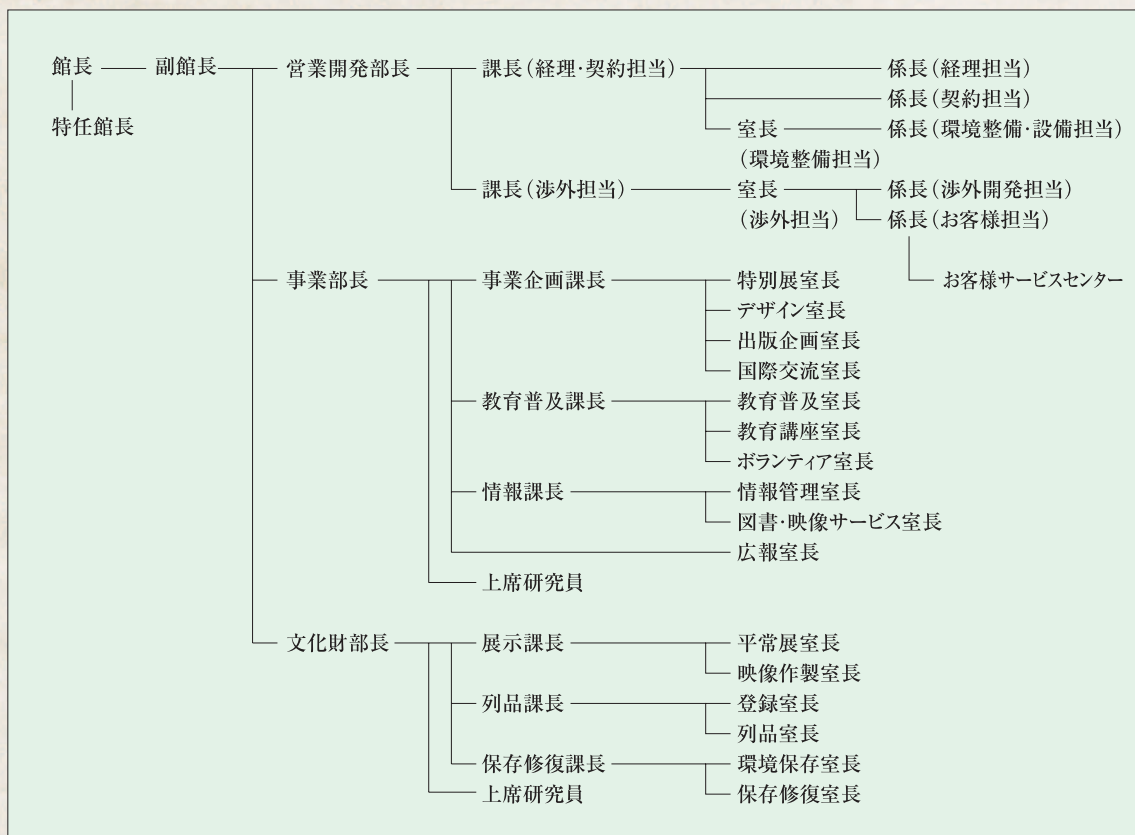
2 博物館の組織・定員 (平成17年8月1日現在)

① 組織

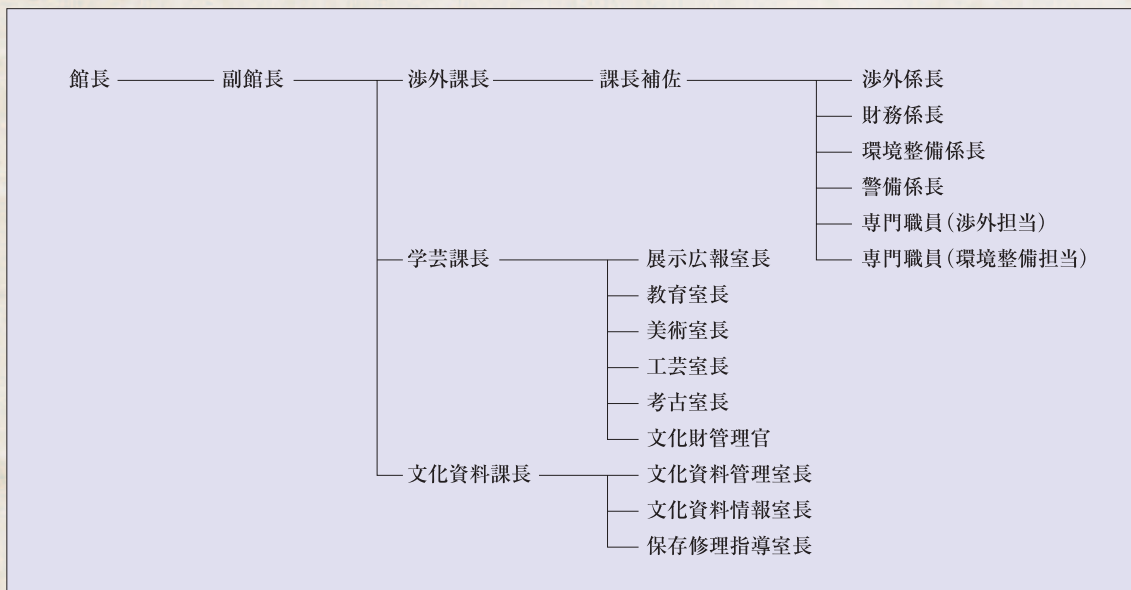
独立行政法人国立博物館・本部事務局組織図



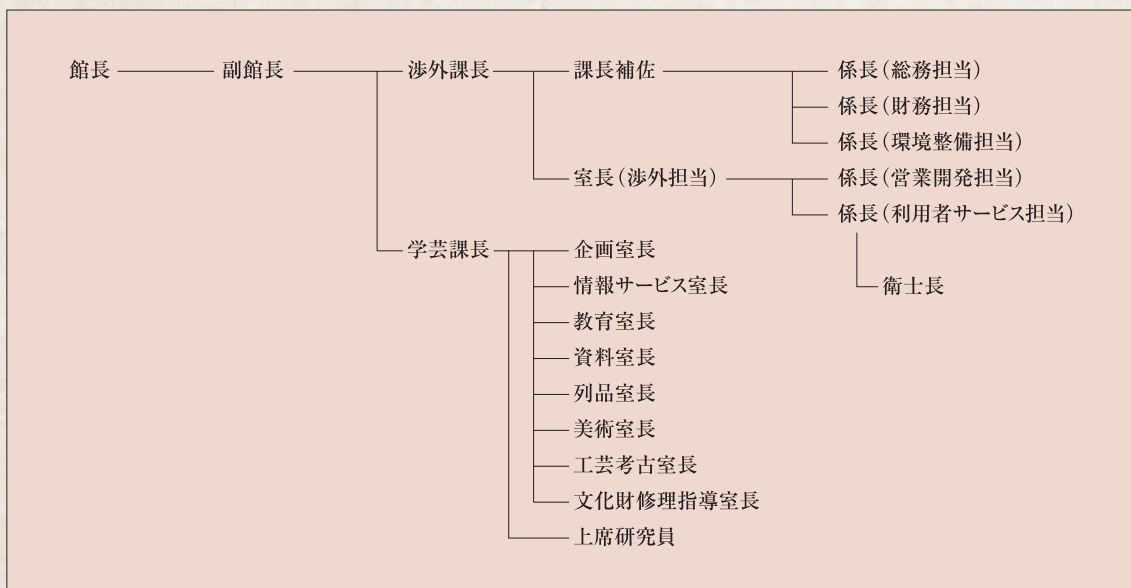
東京国立博物館組織図



京都国立博物館組織図

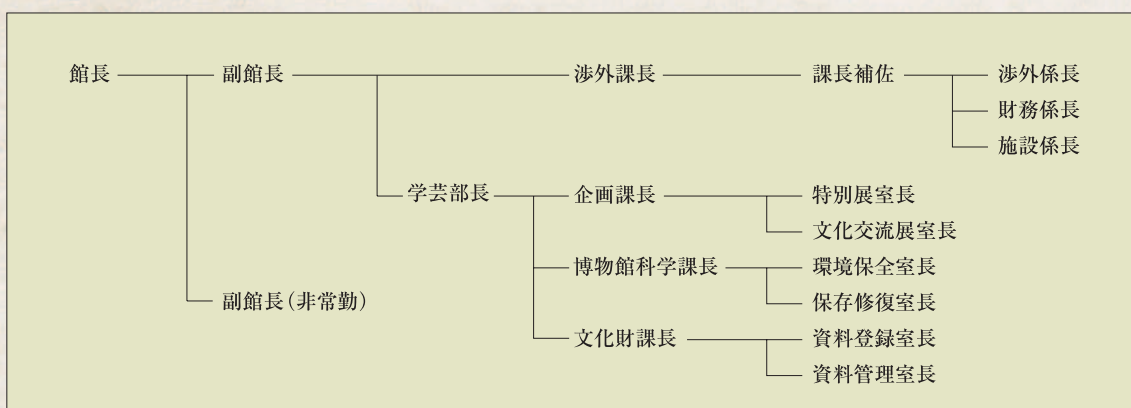


奈良国立博物館組織図



九州国立博物館組織図

九州国立博物館は福岡県と連携して事業運営を行います。



②役員等

理事長（東京国立博物館長）	野崎 弘（のざき ひろし）
理 事（京都国立博物館長）	佐々木丞平（ささき じょうへい）
理 事（奈良国立博物館長）	湯山 賢一（ゆやま けんいち）
理 事（九州国立博物館長）	三輪 嘉六（みわ かるく）
監 事（伝統文化活性化国民協会常任理事）	久保庭信一（くぼにわ しんいち）
監 事（公認会計士）	篠原 啓慶（しのはら ひろよし）

③運営委員会

独立行政法人化に伴い、より一層国民に親しまれる博物館を目指し、また、その役割を果たすため、各界からご意見を伺うべく、外部有識者による運営委員会を設置しています。

運営委員会は、国立博物館の管理運営に関する重要事項について、審議を行うとともに理事長に助言することを任務としています。委員は20名以内で、任期2年（再任可）とし、年2回を目途に会議を開催することとしています。

委員長	福原 義春（ふくはら よしはる）	株式会社資生堂名誉会長
副委員長	大沼 淳（おおぬま すなお）	学校法人文化学園理事長
	阿部 充夫（あべ みつお）	財団法人放送大学教育振興会理事長
	上野 尚一（うえの しょういち）	朝日新聞社社主
	大橋 洋治（おおはし ようじ）	全日本空輸株式会社代表取締役会長
	小倉 和夫（おぐら かずお）	独立行政法人国際交流基金理事長
	田中 浩二（たなか こうじ）	JR九州代表取締役会長
	千野 忠男（ちの ただお）	株式会社野村総合研究所顧問
	辻 惟雄（つじ のぶお）	東京大学名誉教授
	辻村 泰善（つじむら たいぜん）	財団法人元興寺文化財研究所理事長
	辻村 哲夫（つじむら てつお）	独立行政法人国立美術館理事長
	中島 史子（なかじま ふみこ）	フリーライター
	羽毛田 信吾（はけた しんご）	宮内庁長官
	マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター
	蓑 豊（みの ゆたか）	金沢21世紀美術館長
	森 まゆみ（もり まゆみ）	作家
	冷泉 為人（れいぜい ためひと）	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長
	若杉 順子（わかすぎ よりこ）	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョンガバナー

（敬称略）

④外部評価委員会

独立行政法人は、毎事業年度における、また、中期目標の期間における業務の実績について評価を受けることとなっています。このため、文部科学省に評価委員会が置かれていますが、国立博物館においても業務の実績について、自己点検評価を行うとともに、このことを検証し適正な評価を行うために、外部有識者による外部評価委員会を設置しています。

外部評価委員会は、国立博物館の業務の実績についての評価を行い、理事長に助言することを任務としています。委員は任期2年（再任可）とし、適宜、評価にかかる会議・実地視察を行っています。

小林 忠 (こばやし ただし)	学習院大学教授
酒井 忠康 (さかい ただやす)	世田谷美術館長
英 正道 (はなぶさ まさみち)	鹿島建設株式会社常任顧問
藤田 治彦 (ふじた はるひこ)	大阪大学大学院教授
藤好 優臣 (ふじよし まさおみ)	公認会計士
森 弘子 (もり ひろこ)	福岡県文化財保護審議会専門委員
横里 幸一 (よこさと こういち)	株式会社NHKプロモーション常務取締役

(敬称略)

⑤評議員会(各館別)

各館の運営に関する重要事項について審議を行うとともに、館長に助言することを任務として、各館ごとにそれぞれ設置しています。

東京国立博物館評議員

会長	大沼 淳 (おおぬま すなお)	学校法人文化学園理事長
副会長	辻 惟雄 (つじ のぶお)	東京大学名誉教授
	青柳 正規 (あおやぎ まさのり)	国立西洋美術館長
	阿部 充夫 (あべ みつお)	財団法人放送大学教育振興会理事長
	浦井 正明 (うらい まさあき)	台東区文化財保護審議会委員
	大橋 久芳 (おおはし ひさよし)	台東区立忍岡中学校長
	大橋 洋治 (おおはし ようじ)	全日本空輸株式会社代表取締役会長
	加藤 正克 (かとう まさかつ)	台東区立根岸小学校長
	齋藤 順治 (さいとう じゅんじ)	JR上野駅長
	城 善範 (しろ よしのり)	東京都立上野高等学校長
	千野 忠男 (ちの ただお)	株式会社野村総合研究所顧問
	福原 義春 (ふくはら よしはる)	株式会社資生堂名誉会長
	二本 忠男 (ふたつぎ ただお)	上野観光連盟会長
	牧 美也子 (まき みやこ)	漫画家
	マリ・クリスティーン	異文化コミュニケーター
	宮田 亮平 (みやた りょうへい)	東京芸術大学副学長
	森 まゆみ (もり まゆみ)	作家
	吉住 弘 (よしずみ ひろし)	台東区長

(敬称略)

京都国立博物館評議員

会長	興膳 宏 (こうぜん ひろし)	京都大学名誉教授
副会長	朝尾 直弘 (あさお なおひろ)	京都大学名誉教授
	岩城 見一 (いわき けんいち)	京都国立近代美術館長
	上田 正昭 (うへだ まさあき)	京都大学名誉教授
	上野 尚一 (うえの しょういち)	朝日新聞社社主
	肥塚 隆 (こえづか たかし)	大阪人間科学大学及び大阪薫英女子短期大学学長
	佐藤 茂雄 (さとう しげたか)	京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長
	澤田 ふじ子 (さわだ ふじこ)	作家
	嶋崎 丞 (しまざき すすむ)	石川県立美術館長
	仲田 順和 (なかだ じゅんな)	総本山醍醐寺執行長
	栖崎 彰一 (ならさき しょういち)	名古屋大学名誉教授
	矢嶋 英敏 (やじま ひでとし)	株式会社島津製作所代表取締役会長
	湯山 賢一 (ゆやま けんいち)	奈良国立博物館長
	冷泉 為人 (れいぜい ためひと)	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長
	脇田 晴子 (わきた はるこ)	滋賀県立大学名誉教授・城西国際大学教授

(敬称略)

奈良国立博物館評議員

会長	木村 重信 (きむら しげのぶ)	兵庫県立美術館長
副会長	金関 恕 (かなせき ひろし)	天理大学名誉教授
	内山 武夫 (うちやま たけお)	前京都国立近代美術館長
	大野 玄妙 (おおの げんみょう)	聖徳宗管長・法隆寺住職
	北 啓太 (きた けいた)	宮内庁正倉院事務所長
	佐々木 丞平 (ささき じょうへい)	京都国立博物館長
	田辺 征夫 (たなべ いくお)	奈良文化財研究所長
	辻井 昭雄 (つじい あきお)	近畿日本鉄道株式会社取締役会長
	辻村 泰善 (つじむら たいぜん)	財団法人元興寺文化財研究所理事長
	中島 史子 (なかじま ふみこ)	フリーライター
	西口 廣宗 (にしぐち ひろむね)	株式会社南都銀行取締役頭取
	丹羽 雅子 (にわ まさこ)	奈良女子大学名誉教授
	葉室 頼昭 (はむろ よりあき)	春日大社宮司
	水野 正好 (みずの まさよし)	大阪府文化財センター長
	森本 公誠 (もりもと こうせい)	華嚴宗管長・東大寺別当
	山崎 しげ子 (やまざき しげこ)	随筆家
	矢和多 忠一 (やわた ただかず)	奈良県教育委員会教育長

(敬称略)

九州国立博物館評議員

会長	田中 浩二 (たなか こうじ)	JR九州代表取締役会長
副会長	三浦 元 (みうら はじめ)	NHK福岡放送局長
	阿川 佐和子 (あがわ さわこ)	エッセイスト
	王 貞治 (おう さだはる)	福岡ソフトバンクホークス監督
	大野 茂 (おおの しげる)	九州国立博物館設置促進財団理事長
	酒井田柿右衛門 (さかいだ かきえもん)	陶芸作家
	佐藤 善郎 (さとう ぜんろう)	太宰府市長
	高倉 洋彰 (たかくら ひろあき)	西南学院大学教授
	高良 倉吉 (たから くらよし)	琉球大学教授
	多田 昭重 (ただ あきしげ)	株式会社西日本新聞社代表取締役社長
	西高辻 信良 (にしたかつじ のぶよし)	太宰府天満宮宮司
	林田 スマ (はやしだ すま)	大野城市まどかぴあ男女平等推進センター所長
	稗田 慶子 (ひえだ けいこ)	福岡県副知事
	山下 宏幸 (やました ひろゆき)	福岡大学学長
	若杉 順子 (わかすぎ よりこ)	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョンガバナー

(敬称略)

⑥定員

役員 理事長 1 人
理事 3 人
監事(非常勤) 2 人

区分	定員			
		一般職	技能・労務職	研究職
計	239人	97人	41人	101人
本部事務局	8人	8人	—	—
東京国立博物館	127人	46人	27人	54人
京都国立博物館	42人	20人	6人	16人
奈良国立博物館	34人	13人	8人	13人
九州国立博物館	28人	10人	—	18人

3 平成17年度予算

収入予算額

(単位：千円)

	合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	本部事務局
運営費交付金	(5,955,549) 6,622,211	(2,129,213) 2,182,233	(931,548) 879,155	(915,588) 825,848	(0) 2,330,868	(1,979,200) 404,107
展示事業収入	(995,015) 681,152	(634,841) 300,809	(103,832) 91,963	(254,541) 193,095	(0) 95,285	(1,801) 0
入場料収入	(645,640) 549,611	(407,855) 235,538	(58,892) 72,716	(178,893) 176,898	(0) 64,459	(0) 0
その他収入	(349,375) 131,541	(226,986) 65,271	(44,940) 19,247	(75,648) 16,197	(0) 30,826	(1,801) 0
寄付金収入	(50,750) 0	(22,100) 0	(19,300) 0	(9,350) 0	(0) 0	(0) 0
施設整備費補助金	(2,158,569) 311,504	(25,515) 125,405	(0) 0	(0) 0	(0) 186,099	(2,133,054) 0
合計	(9,159,883) 7,614,867	(2,811,669) 2,608,447	(1,054,680) 971,118	(1,179,479) 1,018,943	(0) 2,612,252	(4,114,055) 404,107

上段()書は前年度決算額

支出予算額

(単位：千円)

	合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	本部事務局
人件費	(2,376,592) 2,316,396	(1,074,383) 1,036,296	(410,736) 398,591	(446,620) 404,415	(0) 320,422	(444,853) 156,672
事業経費	(4,791,014) 4,986,967	(2,232,896) 1,396,961	(757,325) 597,605	(805,858) 703,063	(0) 2,139,575	(994,935) 149,763
一般管理費	(663,867) 1,402,956	(419,622) 456,241	(129,142) 141,372	(39,060) 269,676	(0) 418,280	(76,043) 117,387
展覧事業費	(2,536,440) 2,687,029	(1,262,178) 629,921	(545,108) 348,219	(712,320) 337,880	(0) 1,371,009	(16,834) 0
調査研究事業費	(573,351) 770,793	(466,647) 260,177	(60,470) 87,325	(46,234) 56,648	(0) 336,655	(0) 29,988
教育普及事業費	(113,911) 126,189	(83,059) 50,622	(22,605) 20,689	(8,244) 38,859	(0) 13,631	(3) 2,388
九州準備事業費	(903,445) 0	(1,390) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(902,055) 0
施設整備費	(2,158,569) 311,504	(25,515) 125,405	(0) 0	(0) 0	(0) 186,099	(2,133,054) 0
合計	(9,326,175) 7,614,867	(3,332,794) 2,558,662	(1,168,061) 996,196	(1,252,478) 1,107,478	(0) 2,646,096	(3,572,842) 306,435

上段()書は前年度決算額



平成16年度に入り独立行政法人となって3回目の評価が行われました。平成15年度事業に対する文部科学省独立行政法人評価委員会の評価の主なものは以下のとおりです。

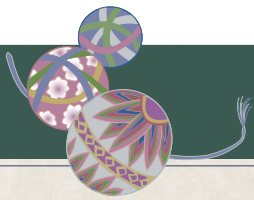
総 評

国立博物館は、平成15年度においては、中期目標期間の3年目として、3館全体で目標の入館者数約134万人を大きく超える約213万人が観覧し、多くの人々が評価する展覧会を開催した。また、少ない館職員の努力で、収集・保管、展示、調査研究、教育普及などの「国民に対して提供するサービス」、及び「業務運営の効率化」について年度計画以上の実績を上げ、特に、各種イベントやコンサート等を開催するなど、新しい博物館の運営に積極的に取り組んだ。さらには、ナショナルセンターとして国際文化交流を推進するとともに、国内外の博物館活動の充実へ大きく貢献するなど、中期目標にある「国民に親しまれる」を目指して、着実な成果を上げていると評価する。

また、評価委員より、以下のような指摘も受けました。今後はこれらの課題にも重点的に取り組んでまいります。

収集・保管	・24時間空調が行われていない施設については、保管に適切な温湿度の範囲を超えないよう、また急激な温度変化が生じないように今後とも努める必要がある。 ・保存・修復の専門的な知識を有する職員がいない館は、外部の研究者の協力を得るなどして、その強化に努めることが望ましい。 ・文化財は継続的な修復が必要であることを周知しつつ、保存・修復に関するデータベースの共通規格化を検討することが望ましい。なお、文化財の取扱いについては、その知識と技術が重要であるとともに慎重さが求められることから、引き続き、職場での体験や研修を通じて、その継承に努める必要がある。 ・今後とも、文化財を収集しやすくするため、文化庁と連携・協力し税制問題を含めてその推進方策を検討するとともに、各館で情報交換を図りながら各館にふさわしい文化財を収集することが望ましい。
公衆への観覧	・より多くの国民を博物館に引き付けるため、展覧会の充実以外にも館の魅力を高める方策を進めていくことが重要である。そのためには、効果的な広報を行い、観光や地域の振興に果たす役割を持つような戦略などを引き続き検討し、いままでは観覧したことのない人にも興味を喚起し、何度でも足を運んでもらえるような改善を図る必要がある。 ・貸与については、引き続き、文化財の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の趣旨を考慮しながら、できる限り幅広く応えていくことが望ましい。 ・今後とも、整理券や期限付きの入場券の発行、他館との共通入場券の導入等を検討し、より良い観覧環境を確保するための努力を続ける必要がある。 ・見やすく、わかりやすい展示や作品解説にするよう工夫するなど、展示の持つ教育普及効果に、十分配慮することが望ましい。
調査研究	・研究成果については、国立博物館が作成する図録や研究紀要の発行等に際しては、編集方針を併記するなど学術的に高い水準を確保することが望ましい。 ・展覧会は、博物館が創出する知的な財産・作品であり、展覧会の図録の刊行などの出版活動の活性化を期待したい。また、展覧会に関するデータベースの構築は、国内外の研究者に資するものであり、研究成果の外部への公開が望まれる。

教育普及	・学芸員を養成する博物館実習生の受け入れについては、他の業務とのバランスを勘案の上、目的を明確にして積極的な受け入れを検討する必要がある。 ・今後とも、大学生、ボランティア等との連携・協力の可能性について、引き続き検討していくことが望ましい。また、収蔵品及び図書などの諸資料のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。また今後は、教育普及活動に参加した人に、博物館をどのように利用すればよいかを示唆できるよう、内容を一層工夫することが望ましい。
その他の入館者サービス	・アンケート調査を引き続き実施するとともに、モニター制度の導入を検討するなど積極的に入館者の声を聞き、入館者が充実した時間を過ごせるよう、展覧会の企画、広報などあらゆる事業の改善にその結果を活用することが望まれる。 ・引き続き、外国人に親しまれる博物館としての活動に力を入れていく必要がある。今後は、館のアクセス情報等、インターネットを活用したサービスについても、より積極的な検討が望まれる。また、引き続き、バリアフリーの対応を図っていくことが望ましい。
運営 (理事長等の トップマネジメント)	・今後とも、文化財、人材、情報など国立博物館の持っている資源を最大限に活用し、各館が一体となった効率的かつ効果的な運営を行っていくことを期待する。 ・今後とも、国立博物館の館活動の支援者の育成や、地域社会との連携、施設の有効活用による収入の拡充が望まれる。また、国際文化交流には、より一層主体的に取り組んでほしい。 ・各館の特性を活かして、ダイナミックな改革を目指していくことが望まれる。また、独立行政法人化されたことにより、引き続き、理事長及び理事がトップマネジメントとしての意識を強く持つていくことが重要である。
財務	・各事業の実績等を勘案した上で予算を作成し、コスト意識を持ちながら、柔軟かつ弾力的な執行を行い、その結果を自己点検していく必要がある。 ・文化財の特別観覧や施設使用の料金の設定は、国有財産の使用料に準拠しているものが多く、今後、使用者やその目的などを勘案し、商業利用等については提供するサービスに見合った料金設定をするなど、独立行政法人として弾力的な取り扱いについて検討することが望ましい。
人事	・事務職員については、主として、文化庁、文部科学省、国立大学等との定期的な人事交流により、安定した人員の供給と組織の活性化がなされているが、博物館業務固有の専門分野での人材育成に困難な面がある。このため、今後は、国立博物館で独自に事務職員を採用し、博物館運営など固有の業務についての知識を習得するための研修を実施して、人材を養成していく必要がある。 ・国立博物館として一体的な運営を目指すため、今後とも本部機能の充実を図り、各館における職員の人事交流も積極的に検討する必要がある。 ・研究職員については、文化財に関する専門的な知識とともに、独立行政法人における役割を十分理解し、館運営や広報等の博物館活動の重要性について正しい認識を持つことが必要である。そのため、経験と知識の専門性を尊重しつつ、文化庁や国立大学等との人事交流、または公私立の博物館や民間企業等からの採用についても、引き続き積極的に行っていく必要がある。
施設	・常時、施設の状況の点検等を行い、今後とも、修繕すべき施設の優先順位を法人として決定して、計画的に改修を図っていく必要がある。 ・文化財を適切に保管し、後世に伝えていくとともに、来館者が快適に過ごすことができるような施設にすべく工夫していく必要がある。 ・国立博物館の各館のPRを含めて、施設の有効活用をさらに推進していくことが望ましい。また、新しく整備した九州国立博物館については、その在り方等について、さらに具体的に検討を進めていくことが望まれる。



●情報公開

国立博物館（本部事務局、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）が保有する独立行政法人国立博物館の文書に関する情報公開の相談・受付、及び平成17年4月の個人情報保護法施行に基づく個人情報を含む法人文書の本人からの開示・訂正請求は、各館の情報公開室で対応しています。また、法人文書ファイル管理簿は、「<http://www.natmus.jp/DocFileSearch.html>」で公開しています。

●法人本部事務局

国立博物館では、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の4館が一体的で効率的な運営を行うために法人本部事務局（東京国立博物館内）を設置しています。

法人本部事務局では、「国立博物館運営委員会」「独立行政法人国立博物館外部評価委員会」の会議開催や4館に共通する予算、人事、企画、共済等の業務を行っています。

また、ホームページ、年報や概要の刊行を通して国立博物館全体の活動を広く皆様に紹介しています。



法人ホームページ

<http://www.natmus.jp/>



法人ホームページでは、次のような情報を提供しています。

- ・4館に共通する事業の最新情報
- ・年度計画
- ・中期計画
- ・評価結果等
- ・理事長・理事・館長のコラム
- ・職員の採用情報



独立行政法人国立博物年報

国立博物館からのお知らせ

●寄付・寄贈

【寄付】

独立行政法人は国から運営交付金や施設整備費補助金を得て事業運営していますが、厳しい財政状況や効率化を図る観点から、広く外部資金を導入し経営に役立てることが求められています。国立博物館も例外ではなく、入場料以外にも収入の道を確保しなければなりません。このような趣旨から、個人・団体を問わず広く皆様にご支援をお願いしています。（国立博物館は、「特定公益増進法人」に該当する法人として、一般の法人に対する寄附金と異なり、所得税法・法人税法の優遇措置の対象となっています。）

ご寄付に関するご相談については、下記にお問い合わせください。

【寄贈】

国立博物館では、文化財を保存・管理、調査研究、展示などでの公開に活用しています。これらの事業を行うために各館では、文化財を計画的に購入しておりますが、文化財所有者の方からのご寄贈も頂いております。

ご寄贈に関するご相談や手続きについては、下記にお問い合わせください。

お問い合わせ先

	東京国立博物館内	京都国立博物館内	奈良国立博物館内	九州国立博物館内
寄 付	本部事務局資産活用課資産活用担当	渉外課営業開発担当	渉外課財務担当	渉外課
寄 贈	文化財部列品課	文化資料課文化資料管理室	学芸課企画室	文化財課資料管理室

●会員制度

東京国立博物館・奈良国立博物館では賛助会員制度（随時加入）による支援を、京都国立博物館では(社)清風会による支援を頂いております。また、お客様により博物館に親しんで頂くために、友の会・パスポート制度を設けております。皆様のご利用をお待ちしております。

賛助会員制度等

	東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館		
名 称	東京国立博物館賛助会員			社団法人 清風会			奈良国立博物館賛助会員		
年 会 費	特別会員 100万円 以上	維持会員 (個人) 5万円	維持会員 (団体) 20万円	賛助会員 一口 10万円	特別会員 5万円	普通会员 2万円	特別賛助 会員 50万円以上	賛助会員 (個人) 5万円	賛助会員 (団体) 20万円
特 典	平常展 会員証提示により、同伴者1人まで何回でも無料で入館できます。 特別展 会員証提示により、同伴者1人まで何回でも（東京国立博物館の維持会員は各1回のみ）無料で入館できます。 ※お申し込みの館以外の特別展は、同伴者1人まで各1回のみ無料で入館できます。								
お 問 い 合 せ 先	営業開発部渉外開発担当 03-3822-1111 (代表)			社団法人 清風会 075-531-7519			渉外課営業開発担当 0742-22-7771 (代表)		

(参考) 平成16年度会員件数 東京国立博物館 86件 京都国立博物館 400件 奈良国立博物館 9件 ※個人・団体を合わせた数

友の会・パスポート

	東京国立博物館			京都国立博物館		奈良国立博物館		
名 称	友の会	パスポート		友の会		友の会 (パスポート)		
年 会 費	1万円	一般 3千円	学生 2千円	一般 3千円	学生 2千円	一般 3千円	学生 2千円	家族 6千円
特 典	平常展 会員証またはパスポート提示により、何回でも無料で入館できます。 ※奈良国立博物館の家族会員は、奈良国立博物館については1回に5人まで、東京・京都・九州の各館については1人のみ無料で入館できます。 特別展 会員証またはパスポート提示により、特別展ごとに1回、合計6回まで無料で入館できます。 ※東京国立博物館の友の会会員は、特別観覧券を12枚お渡しします。（ただし、京都・奈良・九州でも使用できる観覧券は6枚） ※奈良国立博物館の家族会員は、奈良国立博物館については1回に5人まで、東京・京都・九州の各館については1人のみ無料で入館できます。（ただし、東京・京都・奈良・九州の各館あわせて6回まで）							
お 問 い 合 せ 先	営業開発部渉外開発担当 03-3822-1111 (代表)			渉外課渉外係 075-541-1151 (代表)		渉外課営業開発担当 0742-22-7771 (代表)		

(参考) 平成16年度会員数 東京国立博物館 14,670人 京都国立博物館 1,884人 奈良国立博物館 2,638人

独立行政法人
国立博物館本部事務局

〒110-8712 東京都台東区上野公園13番9号
電話 (03) 3822-1111 (大代表)
URL: <http://www.natmus.jp/>

